

ボートレース発祥の地大村

ボートレース大村は
今年で60周年を迎えます。

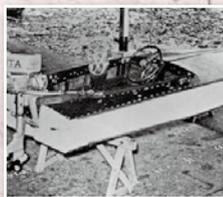
大村ボートレース場は、大村市が誕生して10周年の節目にあたる1952年(昭和27年)4月6日(全国で初めてモーターボートレースが開催された「ボートレース発祥の地」です。開設以来、今年で60周年の還暦という節目の年を迎えました。水上を疾走するモーターボートの勇姿に、今もなお多くの人々から声援をいただいています。

場内には充実した食のスペース(6店舗)やキッズルームをはじめ、全国で唯一、ボートレースの歴史を鑑賞でき、乗艇シミュレーター体験など楽しめる「ボートレース発祥の地記念館」があるなど、レースはもちろんレース以外でも快適に楽しめる空間づくりに努めています。

また、現在、スタンドの全面建替えを実施すべく、2014年度(平成26年度)のオープンを目指して準備を進めており、今後、常にお客様のニーズに対応したボートレース場づくりに取り組んでいきます。



大村初開催を知らせるポスター



1952 昭和27年
記念艇大村第1号(現在でも走れます)



1952 昭和27年
開催当初のスタンド風景



1954 昭和29年
「力道山賞争奪戦」表彰式力道山氏(左から2番目)



1960年代
レース風景



1982 昭和57年
第1回競艇祭開催



1991 平成3年
ロイヤルスタンド(H2起工~H3完成)



2005 平成17年
大村ボートレース場初の全国発売レース
GI女子王座決定戦開催



2010年 平成22年
55年ぶりのSG開催
SGグランドチャンピオン決定戦開催

秘められたもうひとつの立法精神

連載 Vol.6



大村市モーターボート競走事業
管理者
田中 克史

先日、日本財団を訪ねようと歩いていると、偶然ビルの最上階付近に掲示してある電光掲示板に「日本財団 雲仙普賢岳の災害復旧に義援金届ける」との文字が目飛びこんできました。信号待ちで電光掲示板に初めて気づき、たまたま流されていた雲仙普賢岳噴火の際の復興支援を目にしたのです。

胸にあたかさを覚えながら、電光掲示板のニュースを日本財団の役員の方にお尋ねすると、確かに当時そのような支援が行われたとのことでした。また、東日本大震災では、被災自治体に「現金支援ではなく、仮設住宅建設、ボランティア支援など実際の復興活動への支援が行われている」とのことでした。

その話を別のモーターボート関係者にすると「モーターボート競走法には書かれていないが、立法目的には戦災の復興があったのです」と秘められたもうひとつの立法趣旨を知ることができました。

まもなく東日本大震災から二年を迎える3月11日がやってきます。その日は大村でGIIモーターボート誕生祭の優勝戦が行われます。

郷土長崎県が雲仙普賢岳噴火の際に受けた支援、国土復興という立法の精神を活かすなどさまざまな思いを込めて当日のレース収益の一部が松本市長から日本財団へ届けられます。

(つづく)

3月のレース開催日程

本場
開催

6日~11日 ボートレース発祥地記念
GII 第15回モーターボート
誕生祭~マクール賞
20日~23日 長崎新聞社杯
29日~4日 大村さくらまつり競走

場 外

28日~ 4日 GI 女子王座決定戦(多摩川)
1日~ 4日 GIII 宮島企業杯
15日~20日 SG 総理大臣杯(戸田)
24日~29日 GII MB大賞(徳山) ※24日~28日はブルドラ前売り場外で発売
※29日は大村本場との併用発売
ナイトー
5~14日・21~22日を除く全日
ブルードラゴン、前売り場外発売所で発売